

NPO 自立支援センター ふるさとの会

2008.12.30
【第12号】

1年間ご愛読ありがとうございます
来年もどうぞよろしくお願いたします

これはHTML形式のMAILです。
オンラインで無い場合は画像が表示されない可能性があります。

HOME PAGE SCHEDULE EVENT

※ふるさとの会のメールマガジンをご愛読いただき、誠にありがとうございます。今後もふるさとの会の活動内容を定期的に情報発信させていただきたいと存じます。ご不要の場合はお手数ですがご返信くださいますようお願いいたします。

INDEX

1. 敬老室バス旅行に参加して(特別寄稿: 麦倉哲氏)
2. 全体研修 講師:『自閉症』の子供たちと考えてきたこと著者佐藤幹夫氏
3. 第2回地域ケア連携を進める会
4. Gallery Cafe 三富製作所 オープングレセプションのご報告
5. 九州および大阪研修報告
6. 今月のボランティア—越年特集

1. 敬老室バス旅行に参加して

天候に恵まれた11月23日の日曜日、敬老室利用者24名と、ボランティア、職員あわせて9名は、バス旅行に出かけました。目的地は、銚子犬吠埼、利用者みんなの意見をもとに決めた旅行先です。今回は、山谷のイベントで常日頃お世話になっているハモニカバンドの新井さんご夫婦をゲストに招きました。また、東京善意銀行さんからボランティア歌手の戸川さんが参加してくれました。そして女性ボランティア3名。看護師さんも参加してくれました。

バス旅行の前日は、興奮して眠れなかったという人もいました。往路で大渋滞、1時間たっても、「まだ、東京か?」という声が聞こえました。そして、ようやく犬吠埼に着きました。みなさん、雄大な景色に見入って、中にはボランティアさんと海岸を散策している人もありました。浜辺をバックに記念撮影。次の目的地、銚子漁港にあるポートセンターに向かいました。参加者の一人が、この展望台の構造にとっても詳しい。よく聞いたら、このタワーの工事に加わった経験のある人でした。ヤマの人は、日本各地に仕事の成果を残しているのです。そして次が、ヒゲタの醤油工場、おみやげに醤油をいただいて、工場の前で、記念撮影をしました。バスの中は、新井さんのハモニカ、戸川さんの歌、そしてみんなのカラオケで盛り上がりしました。

みんな無事に帰って、よかったです。よい、思い出になりました。後日参加のみなさんは、NPOふるさとの会から、記念の写真をプレゼントされました。

(ボランティアサークルふるさとの会世話人 麦倉 哲)



久しぶりに海岸をそぞろ歩きでにっこり



貸し切りバスの前で全員集合左奥が筆者

2. 職員全体研修報告 講師:『自閉症』の子供たちと考えてきたこと著者 佐藤幹夫氏

11月22日ふるさとの会の全体研修では『自閉症裁判』『自閉症の子どもたちと考えてきた事』他、多数の著者である佐藤幹夫氏をお招きし『触法障害者をめぐる諸課題』とのタイトルで講演をいただきました。

この日は佐藤氏から知的障害、発達障害を持つ方が罪を犯したというケースである『浅草事件』『寝屋川事件』を元に貴重なお話をいただきました。

犯罪の起因とする所とその方の背景、情景そして一つの事件として扱う社会の判断と処分。

『障害者と社会』、『路上生活者と社会』そして『個人と社会』の関わり、あり方は時代の変遷の中で変化、成されてゆくという事、それらの情報、状況把握の中で素因となるものが何かという問いに心と目を向ける事、それが現社会の中で規則や評価価値の違いがあるとしても、しかしながらそれが成さねばならない事であれば身を投げ関わる事、そして変遷そのものを構築してゆく事。

支援する上での共感、理解、分析、考察そして社会とのすり合わせに煩悶する日々の業務。

その方の成育史、生活史に触れた時どこまで共感できるのか、はたして「同化」せずしてよき方向性を示さねばという思

い。

今回お話を伺いつつ改めて対人援助の難しさと重みを感じました。『自己との折り合い、他との折り合い、社会との折り合い、その折り合いを身につける』という佐藤氏の言葉。支援する上でもそして、日々の生活においても心にしたいと感じました。

(佐藤信子)



佐藤氏のナマのお話、みな熱心にメモを取りながら聞き入っていました

3. 第2回地域ケア連携を進める会—住居と社会サービス—

11月28日、「地域ケア連携をすすめる会」第2回会合が根岸社会教育館ホールにて開催され、医療、介護、行政等様々な分野から41名の方々が参加されました。

第1回会合では、高齢生活保護受給者の住居確保の困難と医療支援、生活支援についての状況を共有しました。

今回は、山友会の油井さんから実際支援に関わった統合失調症、認知症、糖尿病など複数の疾患を抱え簡易旅館で暮らす高齢者の方の事例を発表していただき、在宅サービスの導入を何処まで入れて行けるのかという支援上の問題点を提起していただきました。

訪問看護ステーションコスモスの看護師奥本さんからは、精神遅滞の方をドヤで支援し、その後ふるさと会のホテル三晃へ移り多数の機関が連携して精神的ストレスを取る事により、安心、安全を感じる支援を行ない、今も継続しているという事例報告をしていただきました。

これらの事例を通して、生活保護受給者の退院後の地域での関わり的重要性について意見を出されました。また、友愛会理事長吐師さんなど参加者の方々から、山谷地域での居住支援の取り組み、精神障害者地域生活支援、生活保護のあり方について議論がなされました。医療、介護、行政などの連携による地域ネットワークの広がりが重要であると再認識させられました。

最後に、「地域ケア連携をすすめる会」代表の浅草病院本田医師より、運営委員会を募集し定期的に開催するために、友愛会吐師さん、山友会油井さん、ふるさと会瀧脇が事務局を務め、シンポジウムも開いていきたいという提案がなされました。

(松川恵子)



精神疾患のある単身高齢者の地域での支援について議論がかわされました

4. Gallery Cafe 三富製作所 オープニングレセプション

ふるさと会も組合員として参加している有限責任事業組合新宿・山谷ネットワークが開設した『Gallery Cafe三富製作所』のオープニングレセプションが、12月20日(土)の午後に行われました。

当日は、ふるさと会の日々の支援でお世話になっている医療、行政関係者だけでなく、建築、アート関係者、地域に住むお子さん連れの家族の方々も参加され、さっそくこのカフェは、老若男女入り乱れる華やかな賑わいで満たされました。

台東区日本堤の一角にある、ねじ工場跡。『Gallery Cafe 三富製作所』は、その工場跡を、そこに息づく歴史の痕跡をうまく生かしながらか改装し、アート作品の展示・鑑賞やワークショップの場を提供することで、地域に住まう多様な人々

が互いに交流しあうことを可能にする空間の創出を目指します。

私もレセプションに参加させていただいたのですが、『町のキオク、人のアト、から』と題したオープニング企画展の作家小林史子さんの作品を背景に、『アイレ・フラメンコ』というグループが次々と奏でるフラメンコの律動に、心身ともに触発されたかのように、参加された方々が酒を傾けつつ熱心に語りあう様子を目の当たりにすると、この貴重なカフェが目指す「交流」はすでにおのずと実践されているのだと実感することができました。『三富製作所』の今後の展開に目が離せそうにありません。

(千葉 翼)



小林史子さんの立体作品を背景に
華やかなフラメンコのパフォーマンス



当日は、さまざまな方々が入り混じり、
この場所の可能性について熱く語り合いました



Gallery Cafe 三富製作所 外観



オープニング企画展『町のキオク、人のアト、から』

5. 北九州および大阪研修報告

今年度の職員研修は、11月6日～11日の5泊6日の日程で北九州～長崎～大阪の行程でした。研修内容としては、それぞれの地域における各団体運営施設の取り組みを視察し、ふるさとの会宿泊所・自立援助ホーム事業の今後の取り組みに反映させることです。研修の全てを十分にお伝えすることができませんが、印象に残ったことを報告させていただきます。

長崎雲仙で行われた『福祉のトップセミナーin雲仙2008「包み込む社会」の可能性を探る』に参加しました。主催する(社)南高愛隣会よりの依頼で、ふるさとの会から水田恵(前)代表理事に記念講演の依頼があり、ふるさとの会のこれまでの事業とこれからについて、講演をさせていただきました。その夜の懇親会では、ふるさとの会の取組について好意的なお声かけをいただきました。

翌日大阪へ移動しました。大阪で施設見学をするたびに、必ず訪れる救護施設今池平和寮。織田主任の案内で、大阪における救護施設の位置づけと今池平和寮独自の取り組みに関して説明をしていただきました。

独自の取り組みとは、アフターケアを充実させ、在寮期間の大幅な短縮と地域生活での安定について力を入れられており、ふるさとの会でも常に参考にさせていただいている取り組みの一つです。

特に、退寮・居宅自立した方でも、職員や入所者と交流することのできる場「なごみ」を設けていると説明がありました。この「なごみ」を開設された理由を尋ねたところ、織田主任から居宅自立をされている方々が地域生活の継続をする上で、この今池平和寮での人間関係をいかに継続させ、孤立させないことが大事だと話されておりました。また、「なごみ」を利用されている方々が、コーヒーを片手にソファでゆったり寛いでいる姿を見て、施設と地域が隔絶して存在するのではなく、「なごみ」を通じて施設と地域とがつながり続ける場であることが、強く伝わってきました。

ふるさとの会でも、宿泊所や自立援助ホームにおいて入所者の方々と「一生のお付き合い」という姿勢で、退所・アパート転宅後も地域生活支援センターが継続的な関わりを行っています。地域性の違いはあるにせよ、ふるさとの会の社会使命でもある、利用者との関係性を断ち切らないサポート＝生涯支援。支援/被支援関係ではなく、人と人が地域のなかで関わり続ける＝同心同歩から、社会的排除を受けた方々が、再び地域で安定・安心した生活を送ることのできる居場所が創出されるのだと思いました。

今回見学させて頂いて一番驚いたのは、多種多様な支援メニューを展開していることです。例えば、カラオケBOX、音楽を楽しむ会、ボーリング寮法、音楽演奏などの寮内訓練。料理、俳句、書道、カラオケ等のクラブ活動。多様な行事など、個々の利用者のニーズに沿ったプログラムを実施されていることでした。

私が責任者をしている宿泊所、「ふるさと千束館」を運営する観点から、他団体施設を見学させていただきました。北九州ホームレス支援機構の抱樸館、救護施設今池平和寮、更生施設大淀寮で取り組まれている様々な利用者サービスを聞く・見ることで深く学びました。

今回の研修での収穫は、ボランティアとの連携、娯楽・余暇活動の拡充、個別のケアサービスのシステム作りを学んだことです。逆に千束館を運営するにあたり、今後のサービス向上のための課題が明確となり、利用者がより安定・安心して日々を過ごすことのできるヒントをいただきました。

千束館では入所されている利用者の多様化・重篤化しております。その中でどのような関わりができるのか、模索しながら取り組んでいきたいと改めて気づかされた研修でした。
(柴山健一)



南高愛隣会主催『福祉のトップセミナーin雲仙2008』で講演する

6. 今月のボランティア 越年まつり特集

12月28日～1月3日までの6日間 『ふるさとの会越年祭り』参加者大募集！

昨日の28日から恒例の越年冬祭りを開催しています。

路上生活者の方を対象に、炊き出しの配食や物資の供給を行い、元気に年を越せるようなイベントとして、ボランティアサークルふるさとの会として、毎年行っています。

この活動の目的は、彼らが少しでも元気になって前を向いて行けるための元気づけと、ふるさとの会と彼らのコミュニケーションのきっかけづくりです。今は福祉事務所へ相談に行くことを踏み出せずにいる方が、いざ思い立った時にお手伝いできるための関係を作っておこうというものです。

この冬祭りに、お力を貸して下さるボランティアの方を大募集します！内容は以下のとおりです。また、この行事は全てボランティアのカンパで運営されており、毎年苦勞していますが、今後もなんとか継続したいので、人材支援はもちろん、財政支援でのご協力、また食材や衣類などの物資のカンパも、どうかよろしく願いいたします。

<ボランティア活動内容>

- * あたたかい食事づくり(毎日違うメニューです！料理経験は問いません)
- * 炊き出し配食&路上生活者の方々との交流(言葉を交わして、彼らへ新しい風を送ってください)
- * 路上生活者ききとり調査(アンケートをとります)

<活動期間>

12月28日から1月3日まで
午前8時30分～午後5時(1日だけの参加OK)
朝8時30分集合ですが、参加時間は応相談です。
12月27日と1月4日も準備と後片付けのボランティアの方を募集しています。

<連絡先>

ボランティアサークルふるさとの会 (担当:町田/馬場)
TEL03-3801-0377 FAX03-3801-0881
E-mail boranteahurusato@gmail.com
ふるさとの会HP <http://www.d5.dion.ne.jp/~hurusato/>

<カンパ振込み先>

郵便振替 00260-5-63218 ふるさとの会



発行元: 特定非営利活動法人 自立支援センターふるさとの会

〒111-0031東京都台東区千束4-39-6
TEL:03-3876-8150 FAX:03-3876-7950